

つばさ川柳 願法みつる編 (141号)

『自由句』

終活の切実感にいざ整理

濱田 喜己

好々爺頑固爺を使い分け

置き忘れ昂じてバッグ肩に掛け

満月を童心で観るうさぎ

蜂巣 徹

偉ぶって胸に抱かれた犬の顔

目がきれいマスク美人へ褒め言葉

病院はいつも混むのに赤字とは

藤沼 智弘

ニュータウンオールドタウンに名を替える

卒寿など知るかその内白寿なり

待たせすぎ新横綱の荷が重い
堀内今一步

梅の香を乱し水面に鴨の恋

携帯の遠隔操作お買い物

少女像ヘイトスピーチ領かせ
若松 靖夫

年かさね若いお世辞に要注意

トランプを覗き見してる全世界

老犬は主気遣い歩を緩め
岩崎 篤子

いがみ合う自己中たちの電車行く

冬満月友に知らせて一安堵

キー併抵もないご時世のピッポツパ
佐原 利幸

カルタ取り子には勝てない年になり

水割りの加減崩れる三杯目

溝埋めて夫婦の絆よみがえる

末田 洋一

したたかに後期高齢生きる意地

家族葬増えて葬儀屋上がったり

孫の背は小遣いに似て高くなり

田所 健

腰痛に若さ盗られて杖の人

一杯の酒ほろ苦く訃報聞く

スマホ買い指が画面を這い回る

谷井 修平

プレミアム帰宅毎日午後三時

朝ごはん食べたかしらと母が聞く

開国を迫った国が今鎖国

中井 極

ハナ金を英語に替えて活性化

できちゃって日本死ねと八つ当たり

死なせては呉れぬ医療も癩の種

願法みつる

ホップステップ晩年を宙に跳ぶ

肚据えて覗く地獄は祝祭日

課題 『鉛筆』

みつる選

若者も強く押さえりやシン折れる

谷井 修平

子供でも削る刃物は肥後守

若松 靖夫

鉛筆を削るゆとりが今は消え

堀内 今一步

鉛筆を持てる間はまだいける

藤沼 智弘

鉛筆をサイコロにして出す答

佐原 利幸

鉛筆を舐めて頭が悪くなり

蜂巢 徹

鉛筆は2Bが好きな年もとり

岩崎 篤子

転がして舐めて見つける当たりクジ 中井 極
秀 鉛筆を転がしながら運試し 田所 健
秀 鉛筆の指だこ残す昭和の世 濱田 喜己
秀 ストレスに負けて鉛筆よく折れる 末田 洋一
軸 筆箱の中でのつぼとちびの仲 願法みつる

「雑感 5」

先号で紹介した福田案山子氏の作品を紹介します。

視力の健常者の方がこれらの句を読んで、これが視力障害者の作品であろうなどと想像できますか。そこにはこれっぽっちも嘆きや悲しみなどの心情が感じられません。白杖を携えざるを得ない歩行での嘆きや恨み言などは、全く覗えないのです。

これらの句姿は彼、案山子さんばかりなのではありません。六星川柳会でご一緒の十二名のお仲間皆さんの作品が、そのようなのです。主幹の案山子さんがリードされてきた五十年という歴史の間に染みついた体質なのでしょう。皆さんの明るく生き抜こうとする姿勢が温かく伝わります。健常者が忘れがちな生きることへの感謝と志を、改めて考えさせられます。

課題「楽天家」

そのうちに付きは戻ると疑わず
なるようになるから今日も風になる

課題「落着」

浮気などしない念書に判を押す

大局に立って終止符打つと決め

折句「ライト」

乱世を生き抜いてきた共白髪

楽々と生きてはゆけぬ都市砂漠

課題「立派」

シングルの育児介護も引き受ける

週末はボランティアです今日も出る

課題「両手」

故郷のみやげに両手悲鳴上げ

生還の握手は両の手で包む

折句「りきし」

利息にも期待を懸ける小企業

隣席が気になる空の指定席

次回百四十二号の課題は「おろおろ」です。自由句三句と課題句二句をご投稿下さい。締切は五月末日です。